

農村地域防災減災事業  
(防災重点農業用ため池緊急整備事業)

土地改良事業計画書  
(緊急防災工事計画書)

あかぬきぬま  
赤貫沼地区

鳩山町

埼玉県

目 次

第1章	目的	1	第5章	主要工事計画	9
第2章	地域及び地積	1	第1節	ため池等整備工事	9
第1節	地域	1	1.	総括表	9
第2節	地積	1	2.	堤体補強計画	10
第3章	現況	2	3.	余水吐改修計画	10
第1節	気象及び海象	2	4.	取水施設改修計画	10
1.	一般気象	2	5.	緊急放流施設改修計画	10
2.	特殊気象	2	6.	管理施設改修計画	10
3.	海象	2	7.	その他関連事項	10
第2節	土地状況	3	第6章	附帯工事計画	11
1.	地形、土壌及び浸食の程度	3	第7章	工事の着手及び完了の予定時期	11
2.	土地分類	3	第1節	工事の着手及び完了の予定	11
3.	土地利用の状況	3	第2節	工程表	11
4.	土地所有の状況	4	第3節	工事内訳	12
第3節	水利状況	4	第8章	事業費の総額及び内訳	13
1.	用水状況	4	第9章	効用	14
2.	排水状況	5	第10章	関連する事業	14
3.	被害の状況及び被害原因の究明	6	第11章	現況・計画図面	14
第4章	一般計画	7			
第1節	事業計画の要旨	7			
1.	要旨	7			
2.	事業別面積	7			
第2節	用水計画	8			
1.	計画基準年	8			
2.	計画かんがい方式	8			
3.	計画用水系統	8			
4.	計画用水量	8			
5.	用水対策	8			

## 第1章 目的

### (1) 必要性

赤貫沼は、昭和30年頃に造成され、平成5年度の県単事業を経て現在の構造となっている。

令和元年度の耐震点検調査において、堤体の安定計算の結果より安定性の不足が指摘されている。

また、令和2年度の豪雨調査においては堤体の余裕高の不足、令和3年度の劣化状況評価では堤体からの漏水が見られ、洪水吐施設についても減勢工が設置されていないことから、越水事故が起こった際には下流域の冠水被害、堤体が決壊した場合には下流域に甚大な被害をもたらすことが想定される。

よって、堤体と洪水吐施設の地震・豪雨対策を実施することにより、下流域の防災対策と併せて、農業生産の安定性確保、地域住民の暮らしの安全確保を図ることを目的としている。

### (2) 緊急性

地震や豪雨の発生により、ため池の堤体が決壊した場合には、甚大な被害が想定され、農業施設の保全と安心できる生活環境の構築が急がれるため、安全で安定した用水管理のできるため池として改修することが急務となっている。

## 第2章 地域及び地積

### 第1節 地域

事業名	地域
農村地域防災減災事業 防災重点農業用ため池緊急整備事業	埼玉県比企郡鳩山町大字須江地内

### 第2節 地積

市町村名	現況地目						備考
	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	
鳩山町	9.5	—	—	—	—	9.5	

### 第3章 現況

#### 第1節 気象及び海象

##### 1. 一般気象

観測所名	熊谷地方気象台	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備考
観測期間	平成25年～令和4年	5月～9月	10月～4月		
平均気温(°C)		24.0	10.1	15.9	
降水量	平均(mm)	786.8	502.4	1289.2	
	基準年(mm)	831.0	533.0	1364.0	日雨量1/10確率相当。R2
降水日数	平均(日)	63.1	44.4	107.5	
	基準年(日)	80.0	37.0	117.0	
根雪期間		～			日間
無霜期間		月日～月日			日間
最多風向		NW	最大風速 (風向)	22.8 m/s (WNW)	最多風向発生時期 通年 最大風速発生日月日 昭和41年9月25日

##### 2. 特殊気象

観測所名	熊谷地方気象台	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
		数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
観測期間	昭和元年-令和4年																
最大日雨量 (mm)	301.5	S57.9.12	1/59	292.4	S22.9.15	1/51	277.2	S33.9.26	1/40	267.1	S41.6.28	1/34	255.1	S16.7.22	1/28		
最大時間雨量 (mm)	88.5	S18.9.3	1/59	85.0	S51.6.15	1/45	84.6	S2.7.31	1/44	76.0	H7.8.22	1/23	75.8	S30.7.22	1/23		
最大4時間雨量 (mm)	174.5	S57.9.12	1/525	128.2	S22.9.15	1/42	118.0	S18.9.3	1/25	115.0	H29.10.23	1/21	114.0	S51.6.15	1/20		
最大連続雨量 (mm)	350.0	S57.9.11~12	1/79	339.8	S22.9.14~15	1/66	306.3	S33.9.25~26	1/38	279.6	S16.7.21~22	1/24	268.1	S41.6.27~28	1/20		
最大連続干天日数 (日)	135	S19.10.21 ~S20.3.4	1/805	109	H16.12.1 ~H17.3.19	1/142	100	S16.12.1 ~S17.3.11	1/77	89	H8.11.20 ~H9.2.17	1/36	87	S4.12.4 ~S5.3.1	1/31		

##### 3. 海象 該当なし

## 第2節 土地状況

### 1. 地形、土壌及び浸食の程度

地目	田 (ha)						畑・その他 (ha)							受益地標高 (m)		備考	
	1/1,000 以下	1/1,000 ~1/500	1/500 ~1/300	1/300 ~1/100	1/100 以上	計	3° 以下	3° ~8°	8°~15°			15° ~20°	20° 以上	計	最高 (m)		最低 (m)
面積 (ha)	-	-	-	9.5	-	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	59.50	46.90	
比率 (%)	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表								堆積様式	母材	面積 (ha)		備考
	土壌断面										事業名		
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土性			泥炭層 黒泥層及 びグライ層			農村地 域防災 減災事 業	計	
					表土 一層	下層土 二層 三層							
平塚統 (Htu)	Y/Y ~YR	なし	なし	あり	強粘質	壤質	強粘質	なし	水積	非固結水成岩	9.5	9.5	

### 2. 土地分類（農用地造成の場合のみ記入）

該当なし

### 3. 土地利用の状況

土地利用別 市町村	耕地					山林		採草 放牧地	荒地	その他	計	備考
	水田	普通畑	果樹園	茶園	その他 樹園地	用地林	薪炭林					
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
鳩山町	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.5	
合計	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.5	

#### 4. 土地所有の状況

区分 \ 所有別	個人所有	町所有	国所有	その他	計	備考
面積 (ha)	9.5	-	-	-	9.5	
受益者数 (戸)	13	-	-	-	13	
筆数 (筆)	62	-	-	-	62	
権利関係	耕作者	-	-	-	-	
備考 (関係戸数)	13	-	-	-	13	

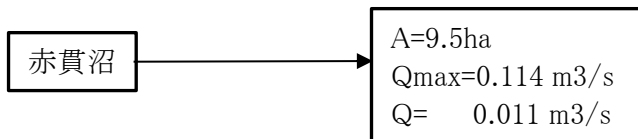
#### 第3節 水利状況

##### 1. 用水状況

当ため池より自然流下にて、開水路で用水を供給している。

##### (1) 用水系統

単位用水量: 代かき期  $q=0.0120\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$  普通期  $q=0.0012\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$  (近傍地(泉井地区)データ参照)



##### (2) 用水施設

##### (7) 取水方法一覧表

項目 \ 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延取水量		備考
	100 ha以上		100~10ha		10ha以下		箇所	ha	箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha									
貯水池	-	-	-	-	1	9.5	1	9.5	-	-	-	-	-	0.114	
井堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
自然取入口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
揚水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計	-	-	-	-	1	9.5	1	9.5	-	-	-	-	-	0.114	

(イ) 改修を要する施設一覧表

項目 施設名	施設名	受益面積 (ha)	貯水量 (m <sup>3</sup> )	構造	規模	新設又は 更新年月日	改修を必要とする理由	備考
貯水池	赤貫沼	9.5	9,400	アースダム 均一型	堤高5.6m 堤長56m	S30	堤体について、余裕高及び安定性が不足しており、漏水が確認されているため。	
井堰	-	-	-	-	-	-	-	
自然取水口	-	-	-	-	-	-	-	
揚水機	-	-	-	-	-	-	-	
用水路	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	
計		9.5	9,400					

(3) 用水に関する被害状況

- (ア) 用水不足による被害状況 該当なし  
 (イ) その他の被害状況 該当なし

2. 排水状況

本地区の排水は、一級河川である鳩川へ排水される。

(1) 排水系統 該当なし

(2) 排水施設

- (ア) 排水方法一覧表 該当なし  
 (イ) 改修を要する施設一覧表 該当なし

(3) 排水に関する被害状況 該当なし

### 3. 被害の状況及び被害原因の究明

#### (1) ため池等の施設決壊の場合被害状況

想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						人命	備考
水田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計		
2.7	0.4	0.9	4.0	2,048	625	24,930		87,632	115,235	-	

#### (2) 原因究明

地震や豪雨による堤体のすべりを起因とする堤体の決壊が想定される。



## 第4章 一般計画

### 第1節 事業計画の要旨

#### 1. 要旨

赤貫沼は、昭和30年頃に造成され、平成5年度に取水施設の改修を行い現在の構造となっている。

赤貫沼に流入する用水等はなく、ため池の取水源は降雨及び集水域からの流入水を赤貫沼に貯留しかんがい用水として利用している。

令和元年度の耐震点検調査において、堤体の安定計算の結果より安定性の不足が指摘されている。

また、令和2年度の豪雨調査においては堤体の余裕高の不足、令和3年度の劣化状況評価では堤体からの漏水が見られ、洪水吐施設についても減勢工が設置されていないことから、越水事故が起こった際には下流域の冠水被害、堤体が決壊した際には下流域の甚大な被害をもたらすことが想定される。

よって、堤体や洪水吐能力に起因する影響を未然に防止する目的で、堤体と洪水吐に地震・豪雨対策を実施することにより、下流域の防災対策と併せて、農業生産の安定性確保、地域住民の暮らしの安全確保を図り、災害に強い農村づくりを推進する。

項目	事業を必要とする項目	改修補修工法	備考
堤体工	・地震時にすべり破壊に対する安全率が基準値1.2を下回っており、劣化状況評価でも漏水が見られているため、安定性を向上させる対策工が必要。	・堤体嵩上げを行い余裕高、堤頂幅を確保する。 ・傾斜遮水ゾーン(遮水シート)型で改修する。 ・背面安定性確保のためかごマットの設置。	
洪水吐工	・堤体嵩上げに伴う調整部・移行部の壁高が不足している。 ・減勢工が設置されていない。	・堤体の改修に伴い堤頂部及び接水部の改修。 ・減勢工を設置する。	
緊急放流施設工	・現況の取水施設では緊急放流の機能を兼ねる事はできない。	・洪水吐に沿う形で緊急放流施設を新設する。	
附帯工	・堤体嵩上げに伴い管理橋周辺の調整が必要である。	・堤体嵩上げに伴い、管理橋周辺を改修する。	

#### 2. 事業別面積

土地利用区分 事業目的	田	輪換耕地	普通畑	果樹園	その他	計	
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
ため池整備	9.5	—	—	—	—	9.5	
計	9.5	—	—	—	—	9.5	

第2節 用水計画

1. 計画基準年 該当なし
2. 計画かんがい方式 自然流下方式(開水路によるかんがい)
3. 計画用水系統 現況から変更なし

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

系統名	項目	種別	面積 (ha)			水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m <sup>3</sup> /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
			事業名			普通期 計画平均 単位 用水量 (mm/日)	代かき期 計画代 かき単 位 用水量 (mm/日)	面 積 (ha)	1日当 計画平 均かん 水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (mm/日)	面 積 (ha)	1日当 計画平 均かん 水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	計画平 均単位 用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平 均	最 大	
			農村地域 防災減災 事業	-	計																
						平均	最大														
赤貫沼	農業用水		9.5	-	9.5	-	-	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	0.097	15	0.011	0.114	

5. 用水対策

- (1) 水利用計画 省略

(2) 用水対策

(1) 貯水池

貯水池名	流域面積 (ha)		かんがい面積 ha	有効貯水量 千m <sup>3</sup>	利用貯水量 千m <sup>3</sup>	利用回数 回	最大取水量 m <sup>3</sup> /s	間接流域最大取水量 m <sup>3</sup> /s	備考
	直接	間接							
赤貫沼	8.9	-	9.5	9.4	9.4	かんがい期	0.114	-	

- (2) 井堰及び自然取水口 該当なし
- (3) 揚水機 該当なし
- (4) 用水路 該当なし

## 第5章 主要工事計画

### 第1節 ため池等整備工事

#### 1. 総括表

名 称		赤貫沼				位 置	埼玉県比企郡鳩山町大字須江地内					
堤 体		形式	堤高 (m)	堤長 (m)	堤端幅 (m)	堤体積 (m <sup>3</sup> )	総貯水量 (千m <sup>3</sup> )	有効貯水量 (千m <sup>3</sup> )	堤頂標高 (EL m)	満水面標高 (EL m)	満水面積 (ha)	有効貯水量 総貯水量
	現況	均一型	5.60	56.0	3.00	1,900	9.4	9.4	10.110	8.470	0.5	1.00
	計画	傾斜遮水 ゾーン型	5.40	56.0	3.10	4,000	9.0	9.0	10.350	8.470	0.5	1.00
		法面勾配		法面保護工			備 考					
	現況	上流	1:1.5	張りブロック								
		下流	1:1.5	-								
計画	上流	1:1.8	張りブロック									
	下流	1:1.8	-									
取 水 施 設 工		斜樋又は堅樋			底樋			取水量 (m <sup>3</sup> /s)	地質	基礎処理	仮排水路	流域面積 (km <sup>2</sup> )
		形式	径	孔数	形式	径	長さ					
	現況	堅樋	-	-	V P管	φ 300 <sup>mm</sup>	20.0 <sup>m</sup>	-	-	-	-	0.09
計画	堅樋	-	-	V P管	φ 300 <sup>mm</sup>	20.0 <sup>m</sup>	-	-	-	-	0.09	
緊 急 放 流 施 設 工		緊急放流孔			流下水路			最大緊急放流量 (m <sup>3</sup> /s)				
		形式	径	孔数	形式	径	長さ					
	現況	-	-	-	-	-	-	-				
計画	ため池栓	φ 125 <sup>mm</sup>	2	RIB管	φ 250 <sup>mm</sup>	14.8 <sup>m</sup>	0.0767					
洪 水 吐 工		形式	構造	余水吐能力 (m <sup>3</sup> /s)	越流水深 (m)	越流堤長 (m)	敷標高 (EL m)	ゲート (m)	計画雨量 (mm/hr)	流出率	計画洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	
	現況	水路流入型	B=2.50 m	1.981	0.67	2.60	8.470	巾 高	106.03	0.63	1.981	
	計画	水路流入型	B=2.50 m	1.981	0.67	2.60	8.470	巾 高	106.03	0.63	1.981	

## 2. 堤体補強計画

### (1) 法面保護施設

堤体上流	.....	張ブロック
堤体下流	.....	特になし

### (2) 補強盛土工

堤体上流	.....	遮水シートによるゾーン型遮水
堤体下流	.....	かご工

### (3) 基礎処理工

堤体上流	.....	地盤改良(置換工法)
堤体下流	.....	特になし

## 3. 余水吐改修計画

調整部・移行部	.....	堤体の嵩上げに伴う部分改修
放水路部	.....	減勢部(柵)への流出速度緩和のための改修
減勢部	.....	減勢工(柵)の新設

## 4. 取水施設改修計画

該当なし

## 5. 緊急放流施設改修計画

既設施設がなく、既存の取水施設では兼ねる事が出来ないため、洪水吐に沿わせるように新設する。

## 6. 管理施設改修計画

堤体の嵩上げに伴う管理橋基礎周辺の改修

## 7. その他関連事項

該当なし

第6章 附帯工事計画 該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

第1節 工事の着手及び完了の予定

着手予定 令和6年度  
完了予定 令和6年度

第2節 工程表

(単位：千円)

	地震・豪雨対策ため池改修工事				
	令和6年度				計
本工事費					
堤体改良工	47,300				47,300
測量設計費	5,830				5,830
用地費及び補償費					
工事雑費					
地方事務費					
合計	53,130				53,130

第3節 工事内訳

(単位：千円)

	地震・豪雨対策ため池改修工事			
	令和6年度			全体
本 工 事 費				
堤 体 工	14,300			14,300
堤 体 附 帯 工	11,000			11,000
洪 水 吐 工	3,300			3,300
取 水 工				
緊 急 放 流 工	1,100			1,100
仮 設 工	15,400			15,400
撤 去 復 旧 工	2,200			2,200
本 工 事 費 計	47,300			47,300
測 量 設 計 費	5,830			5,830
用 地 費 及 び 補 償 費				
工 事 雑 費				
地 方 事 務 費				
合計	53,130			53,130

## 第8章 事業費の総額及び内訳

### 1. 総額

53,130 千円

### 2. 内訳

事 項	本事業費(千円)	備 考
工事費	47,300	
測量設計費	5,830	設計業務費
用地買収補償費		
調査費		
機械器具費		
工事雑費		
予備費		
計(事業費)	53,130	
地方事務費		
合計	53,130	令和5年度単価

## 第9章 効用

区 分	項 目	年総効果(便益)額 (千円)	年増加農業所得額 (千円)	現況年総農業所得額 (千円)	備 考
	食料の安定供給の確保に関する効果	△ 776	-	-	営農経費節減効果、維持管理費節減効果
	農業の維持発展に関する効果	1,153	-	-	
	農村の振興に関する効果	3,663	-	-	
	多面的機能の発揮に関する効果		-	-	
	その他の効果		-	-	
	計	4,040			

### 総費用総便益比

区 分	算 式	数 値	備 考
総費用(現在価値化)	①=②+③	62,872	
当該事業による費用	②	46,442	
その他の費用	③	16,430	
総便益額	④	81,520	
総費用総便益比	⑤=④/①	1.29	

## 第10章 関連する事業

該当なし

## 第11章 現況・計画図面

1. 位置図
2. 計画平面図
3. 標準断面図



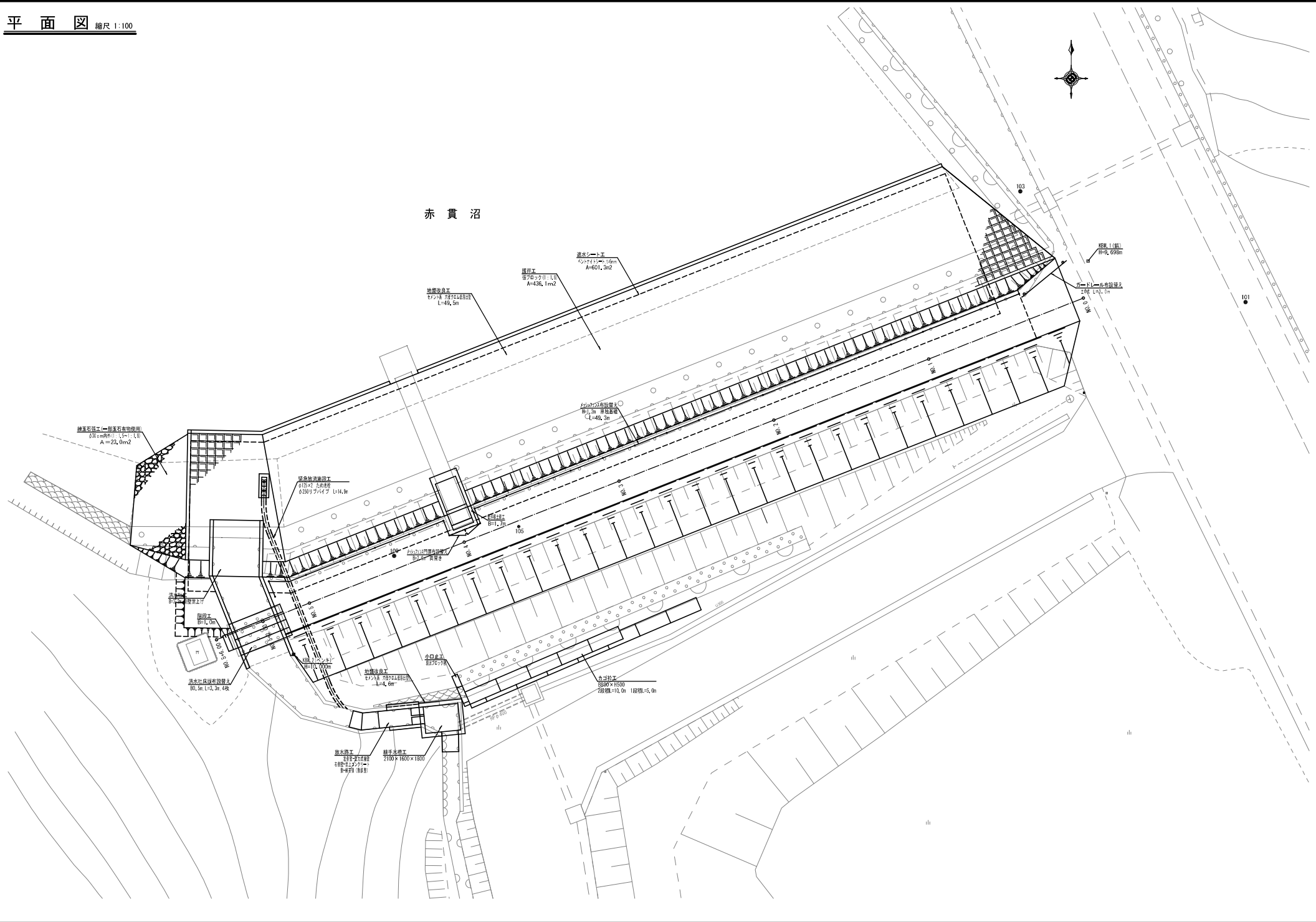
# 位置図

農村地域防災減災事業（防災重点農業用ため池緊急整備事業） 赤貫沼

県内位置図



赤貫沼



建築石詰工 (一階床石在物使用)  
500x600x11.5x1.1.8  
A=23.0m<sup>2</sup>

居室改良工  
115x12.5x1.8  
L=14.5m

洋室工  
洋700x700:1.3  
A=4.96, 1m<sup>2</sup>

遊楽コート工  
700x700:1.5  
A=601.3m<sup>2</sup>

建築改良工  
700x700:1.3  
L=49.5m

4階建て  
4階建て  
L=49.3m

階段工  
1000x1000  
L=1.0m

外階段  
1000x1000  
L=1.0m

階段工  
800x800  
L=1.0m

浴室  
1000x1000  
L=1.0m

浴室工  
1000x1000  
L=1.0m

洗面工  
1000x1000  
L=1.0m

小口工  
800x700  
L=1.0m

建築改良工  
700x700:1.3  
L=4.6m

浴室工  
800x800  
L=1.0m

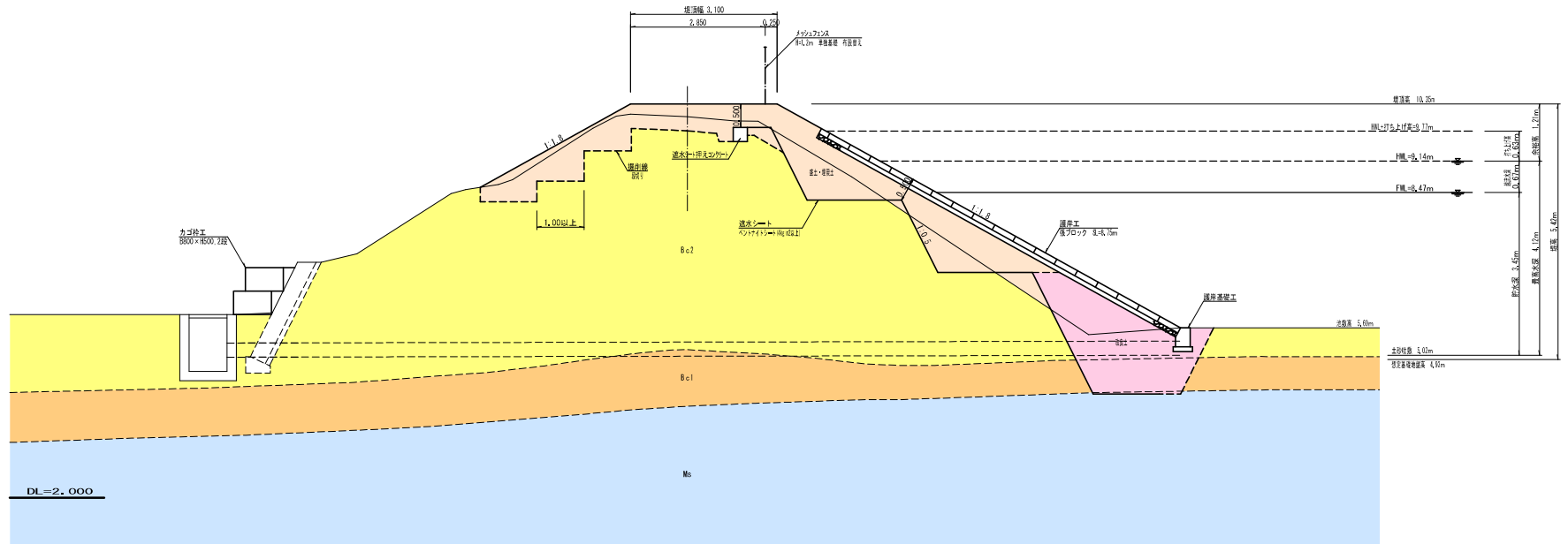
浴室工  
2100x1800x1800  
L=4.6m

洗面工  
2100x1800x1800  
L=4.6m

浴室工  
800x800  
L=1.0m

浴室工  
800x800  
L=1.0m

# 堤体標準断面図 縮尺 1:50



# 環境配慮調書

( 赤貫沼地区 )

■ 田園環境整備マスタープラン等の概要

市町村名 項目	鳩山町
<p>地域の環境評価に関する事項 * (現状と課題、特徴的な自然環境や景観等)</p>	<p>鳩山町は、越辺川・鳩川などの水辺、県立比企丘陵自然公園や各所に点在する寺社林といった緑地に恵まれた豊かな環境を有しており、関東平野と外秩父山地の中間で全体的になだらかな丘陵地となっている。また、鳩川を中心に上流にため池を有する河川が多く、その河川流域には今なお武蔵野の原風景である里山景観が残り、その恵まれた自然環境は町の貴重な財産となっている。その一方において、生活様式の近代化や多様化により、農村文化などの地域資源が失われつつあり、同時に農業人口の高齢化・労働力の不足などにより、農村における大きな環境資源である農地そのものの荒廃も招きつつある。</p> <p>こうした中、町内における農業農村整備事業の実施にあたって、それら地域資源の保全・管理を通じた新たな地域コミュニケーションの形成を念頭に置き、数多く点在するため池や河川流域の農村環境、及びそれを取り巻く自然環境を保全して行く必要がある。</p> <p>『 課 題 』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地や山林、水辺の適切な管理と保全</li> <li>・ 高齢化、労働力不足による農地荒廃化の防止</li> <li>・ 希少種等の重要生物保護</li> <li>・ 歴史的文化財の保全・整備</li> </ul>
<p>環境保全の基本方針 * (地域環境の保全に関する基本的な考え方)</p>	<p>鳩山町の目指す環境像「人と自然と文化が奏でる農村空間 “はとやま美しの里”」を実現するための5つの環境保全目標。</p> <p>【環境保全目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 安全な暮らしを守り、安全で豊かな環境の指標となる動植物の生息域である水辺や緑地の保全</li> <li>② 安全で快適な暮らしと地域色のある田園景観を提供する農地の保全</li> <li>③ 地域交流の核となる環境資源やうるおいのある集落景観の保全</li> <li>④ 郷土愛を育む歴史文化資源の保全</li> <li>⑤ 循環型農業の推進による環境保全</li> </ol>
<p>地域の農業農村整備事業における環境への対応方針 * (農地等区域におけるゾーニング内容及び各地域の整備イメージ)</p>	<p>鳩山町は大きく3つの地域に区分しており、民間開発により人口の約6割を有する東部地区、古くから町の中心的役割を担う南部地区、そして、丘陵地（山林）の占める割合が多く最も自然の豊かな地域で、旧来から農業を中心とする集落地域であることから、都市的土地利用の度合いが低い北部地区で区分されている。このような特性から、町内に点在するため池をはじめとした農業用かんがい水源と水田地帯を保全するとともに、不整形農地などを活用し、非かんがい期における水生動植物の生息域としてビオトープ湿地の創出を図り、水辺と緑地が調和された魅力あるまちづくりを推進して行く必要がある。</p> <p>農業農村整備事業の整備計画において、ため池の整備にあたっては、水辺環境として保全し、地域や生態系保全、水質浄化など多面的機能に配慮した整備を進めて行く。</p>


■ 環境調査結果の概要

調査により抽出された生物又は景観等

【文献調査】： 樹林地・他（コナラ、クヌギ、モミの巨木、イチイガシ、アカマツ、スギ、ヤマザクラ、オオタカ、サシバ、キジ、ホオジロフクロウ、ノスリ、サンコウチョウ、ムカシヤンマ、オオムラサキ、ハルゼミ、etc）

水辺、河川、沼（トウキョウサンショウウオ、ヘイケボタル、ゲンジボタル、カワムツ、カワセミ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ツグミ、etc）

『参考文献：鳩山町田園環境整備マスタープラン』

<div style="text-align: right;">対象施設等</div> <div style="text-align: left;">整理項目</div>	赤貫沼（ため池）
<p>保全対象生物、景観等 *（確認された生物等のうち、保全対象とする生物又は景観等について、整備対象施設等別に選定するとともに選定理由を整理）</p>	<p>自然環境については、希少生物が確認されている施設ではないので、保護対象生物は特定せずに、現況の自然環境をそのまま保全する。 ただし、在来種保護のため、外来種は原則駆除の対象とする。</p> <p>景観については、赤貫沼地区の田園風景は、緑の豊かさを印象づける景観であることから、計画は現況の形状に近いものとする。</p> 
<p>保全対象生物の生息・生息環境の特徴 *（保全対象生物の生息・生息環境について、その特徴を整理）</p>	<p>ため池に用水を貯水しているため、水棲生物の餌場・生育空間として機能し、ため池内に滞留した魚類が生息している可能性がある。</p>

■ 環境配慮対策の概要

整理項目 / 対象施設等	赤貫沼（ため池）
事業実施による環境影響 ＊事業実施により想定される環境影響（内容、程度）を整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事中の土砂の流出に伴う汚濁水の発生により、周辺水路、河川への流入による水質汚濁が懸念される。また、工事中の騒音、振動による周辺農家、住宅地への影響も懸念される。</li> <li>・ 工事期間中に池の水を抜くことや土工を行う際に、既存の動植物の生態系が乱されることが懸念される。</li> </ul>
環境配慮対策 ＊（地区としての環境配慮のコンセプト、影響緩和（ミティゲーション）の方法及び選定理由、具体的な環境配慮対策工法を整理）	<p><b>【軽減】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事に際しては、工事中の環境への負荷を回避する為に、汚濁水や工事土砂が水路や河川に流入しない対策を徹底する。また、渇水期に工事を行うなどにより工事中の汚濁水の発生を抑えることができる。</li> <li>・ 工事にあたっては、早朝、夜間の工事は行わない。</li> <li>・ 工事車両は騒音対策、振動対策、排気ガス対策のされた機種を導入して周囲への配慮を徹底する。</li> <li>・ 工事中必要に応じて、一時的に動植物を捕獲、移動し生息、生育空間の確保に努める。</li> </ul>

■ 環境情報協議会の開催状況

環境情報協議会の審議事項	年月日	意見交換の内容	意見に対する対応状況
環境情報協議会 協議会の構成 ・水利組合 ・地元代表者 ・鳩山町産業環境課	R5. 6. 14	・令和元年の台風19号の豪雨に備えて落水したが、魚等の生息は確認できなかった。	・池の水を抜いた時に保全が必要な動植物がいた場合には、一時的に移動する。

■ 環境配慮にあたっての体制や調整状況

調整事項	年月日	調整の相手・内容	残された課題等
施設の管理方法 施工時の留意事項	R5. 6. 14	・用水は100%ため池依存のため、貯水回復の期間に配慮してもらいたい。	・貯水回復に配慮した工程計画を立てる。



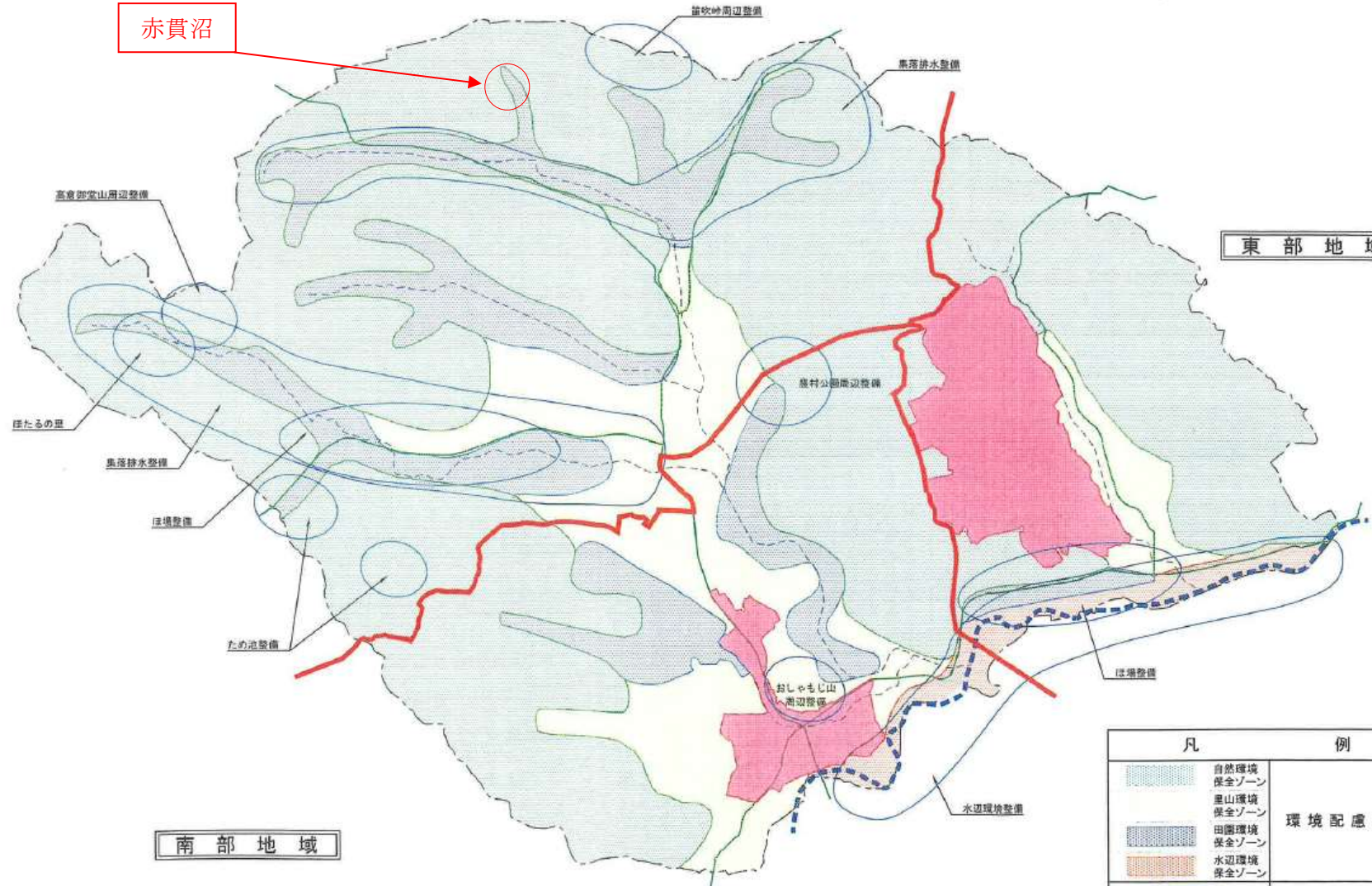
# 田園環境整備計画図

全域 河川、樹林地、里山、農地の保全  
 歴史・文化の保全  
 生ゴミ等のリサイクルによる農地還元

北部地域

東部地域

赤貫沼



南部地域

凡	例
	自然環境 保全ゾーン
	里山環境 保全ゾーン
	田園環境 保全ゾーン
	水辺環境 保全ゾーン
	環境配慮区域
	環境創造区域
	市街化区域
	地域区分

コスト削減計画調書

年度	R5	事業名	農村地域防災減災事業 防災重点農業用ため池緊急整備事業		事業費	53,130 千円
局名	関東農政局	地区名	赤貫沼		工期	R6年度
具体的 取組内容	「資源の有効な利用の促進に関する法律」を遵守するため、再生資源の利用を促進する。 埋設管保護層の砂材及び道路復旧の表層材・路盤骨材に再生資源材を用いる。 また、新技術工法等の採用を積極的に検討する。					
コスト削減状況						
コスト削減額	3,550 千円					
項目	単価	対策前		対策後		
		数量	事業費	数量	事業費	
ため池改修工事			(円)		(円)	
①再生資材の利用						
C-40 (新材)	3,625 円/m <sup>3</sup>	56.100 m <sup>3</sup>	203,363			
RC-40 (再生材)	1,325 円/m <sup>3</sup>			56.100 m <sup>3</sup>	74,333	
②新工法の遮水採用						
刃金土(改良土)	122,900 円/m	50.000 m	6,145,000			
遮水シート	90,100 円/m			50.000 m	4,505,000	
直接工事費計 (該当分)			6,348,363		4,579,333	
				差額	1,769,030	
工事価格 (全体)			41,268,700		37,719,000	

差額 3,549,700